

R05年度学校関係者評価(中学校)

学校評価(中学校)

教育目標 (誠実な人間、良き社会人の育成)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	
1	本校の教育目標「誠実な人・よき社会人の育成」「清い心・たゆまぬ努力」を達成するための取組みができています。	A	全てのサレジオ生が教育目標に向かって成長できるよう、学習・生活・行事を計画した。中学入学前に全員が創立者ヨハネ・ボスコの小伝を読み、「誠実・勤勉」のイメージを共有した。校長の毎週の朝礼や職員会議冒頭の予防教育法研修、各教員による宗教朝礼を基に理念を共有し、年間を通じて継続的な振り返りを行った。	A	・自己評価に同意
2	本校はカトリック学校として全ての教育活動を通じ、その使命を果たしている。	A	聖書の教えを基にカトリックミッション校の伝統を堅持し、時代の変化に対応するサレジオスタイルの宗教行事・宗教教育を行った。サレジオ家族の全世界共通の目標であるストレンナ「ドン・ボスコの家族として、社会のよきメンバーになろう」を合言葉に、聖母祭や創立記念ミサ、クリスマス会、ドンボスコフェスティバルなどを厳粛かつ生き生きと実施できた。	A	・ミッションスクールとしての理念を生かすよう、いろいろな面で聖書や行事を通して工夫されていると思います。生徒も本当にやさしい思いやりの心が育っていると思います。ますます心の教育にお励みくださいと願っています。
3	本校の教育課程は教育目標を達成するために、適切な工夫がされている。	A	国語・数学・英語の3教科は標準より多く授業時数を設定するとともに、小論文やCLIL、数学ベース別授業など特色ある授業を行っている。プログラミングの授業でも、ウェブサイトを自ら作成できるほど力を伸ばしている。MYPカリキュラムを年度初めに全学年に配付し、一年の学習内容一覧を共有できた。コーディネーターによる保護者説明会も定期的に実施し、教育課程や内容に関する理解が浸透してきている。	A	・自己評価に同意
4	本校では生徒の努力の結果を正当に評価し、公正な単位認定が行われている。	B	教員の匙加減ではなく、客観的な評価規準に基づく評価を行った。各ユニットの評価規準と課題を先行提示することで、児童生徒は要点を整理して学習し、その結果をmanagebac上で確認できた。実力テストや単元テストのみならず、各種評価材をもとに、多面的・総合的に評価を行っている。しかし、各ユニットと総括課題の有機的な繋がり、個別の適切な指導、managebacの随時更新など、更なる向上心をもって取り組みたい。	B	・managebacでは課題の提出日の確認や評価などいまいちタイミングなど含めわかりにくいです。
5	本校では落ち着いた環境で生徒の学力をのばすための授業が行われている。	A	全教科で、MYPに基づく年間50時間以上の探究型学習を実施できた。探究の問いや単元のゴールが示されたプランナーによって授業が構造化され、inputとoutputのバランスの取れた、活発で深い学びを目指している。一人一台のiPadも、学習状況の見える化と学びの蓄積、他者との意見交流を助けている。他方、基礎基本の徹底も常に意識し、定期的の小テストや単元テストを実施し、習熟状況を確認した。今後も、探究と基礎基本を両輪に、バランスの取れた教科指導を継続していきたい。	A	・自己評価に同意
6	教員の資質向上のため、授業研修や校内研修等が適切に行われている。	A	総括課題に向けた適切な形成的課題の設定やその評価方法、基礎基本の定着と探究課題への取り組みのバランスなど、より適切な生徒へのかかわりを探究するため、年3回、研究授業を行った。他の教員の授業実践を参考にしながら、自分自身の実践と照らし合わせ、プランナー、総括課題の設定を振り返り、改善へと促す貴重な機会となっている。カトリック校に勤める教員としての心構えは、創立記念日に濱田神父様よりご指導頂いた。名前を呼んで声をかけることや、一緒に過ごす時間を大切にするなど、基本的なことこそ疎かにせず、大事にしていきたい。	A	・自己評価に同意
7	本校では、学級活動や個別面談などを通じ生徒・保護者の意見が把握されている。	A	担任は職員室ではなく、できる限り自分の教室で過ごすアシスタントを実践することで、クラスの変化や課題を肌で感じ、丁寧に対応した。担任は単に指示するだけではなく、生徒の主体性を尊重する学級経営を行い、学年部で密に連携した。年2回、教育相談・進路面談を行い、生徒の現状のみならず未来のビジョンを保護者と共有できた。また授業や行事、保護者会で生徒の姿を直接ご覧頂き、頑張りを伝えることができた。	A	・自己評価に同意
8	生徒を正しく導くために教師が共通理解をもち、生活指導に取り組んでいる。	A	担任・主任・生活指導部・教頭・校長で連携し、常にチームサレジオで対応した。思春期的課題が露わとなり、様々に問題が発生したが、粘り強く対話と指導を続けた結果、多くが改善と成長に向かった。問題発生時に、すぐに保護者にご来校頂いて情報共有、対応方法を協議し、協力を得られたのは実に有り難かった。	A	・自己評価に同意
9	生徒の進路達成のために、適切な指導と学力養成が行われている。	A	カレッジステージのコース選択のために、アドミッションポリシーや学びの特長を整理し、ミドル全体で共有した。特に8年教員は、生徒が「自分らしい学び方」を見つけ、志望理由書を何度も書いて主体的にコース選択に臨めるよう指導した。カレッジステージのコース長による動画説明も分かりやすく、小学校も含め広く配信することができた。コース選択最終希望では、エグゼ希望が40名、ソフィア希望が26名に達し、学園の大きな変化を感じる。	A	・自己評価に同意
10	生徒の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。	A	警備員の配置やICカードによる門扉の管理で、不審者侵入は予防できている。「防災カード」をwebアンケートにて作成し、緊急連絡先や下校グループ、アレルギー、一時避難所などの情報を一元管理できるようにした。暑さ指数計を購入し、基準値を超えた日の外遊びは見送り、熱中症予防を心掛けた。健康管理に関しては、P・M・C各保健室で連携し、日々の傷病対応や養護教諭不在時のカバー体制が進んだ。ミドル教員も下校指導を行い、安心安全な下校に努めた。	A	・自己評価に同意

R05年度学校関係者評価(中学校)

11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	全教員が与えられた校務分掌を責任感をもって果たしている。各部長がリーダーシップを発揮し、分掌間の連携も円滑である。IB教育研究所が設置され、IB理解と研究、連携が促進された。負担感の大きかったICT業務には複数名配置し、頻繁に起きるタブレットの破損や機器トラブル、不適切な使用にチームで対応できた。今年度は生活指導主任を教頭が兼務したが、次年度はこれを分けて段階を踏んだより細やかな指導を行いたい。	A	・自己評価に同意
12	行事運営	校外外で行われる学校行事は教育目標に照らし十分にその役割を果たしている。	A	寝食を共にしてサレジオについて学び、互いの仲を深める新入生研修を4年ぶりに実施できたことは大きな喜びであった。8年生のキャンパスツアーも同様に4年ぶりに一泊二日で実施でき、夏の職業体験とあわせてコース選択やキャリアデザインの一助となった。8年生の多忙さを考慮して、ミドルの最後に実施してきた長崎研修旅行は9年生で実施することになった。しっかり準備し、世界遺産に登録された信仰の伝統や平和への願いを学ぶことで、美り多き行事になることを期待したい。	A	・自己評価に同意
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	ダブル教頭制を敷き、より細やかに児童生徒に目配りしつつ、新しい時代の新しい教育を目指した。宗教部を土台に、教務、研究、生活指導など、各主任が学園指針のもとリーダーシップを発揮した。学年部や担任からは小さなことでも密に報告があり、問題が生じても相談しながら連携し、解決することができた。	A	・自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は生徒が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	A	各教室にサーキュレーターが導入され、換気がよりよくなった。4号館3階にソフィア教室、1階にIB教育研究所が入り、ラーニングコモンズやコミュニケーションスペースの設置と相まって、4号館が活気づいた。以前はあった雨漏り問題も、屋上・外壁防水工事により完全に解消した。	A	・自己評価に同意
15	課外活動	放課後の部活動や生徒会活動を通じ、教師が常に生徒と「共にいる」よう努めている。	A	放課後にはサレジオメソッドを実施し、self-studyやBasic / weblio English、各部活動など、生徒それぞれの必要に応じた学習や活動のために工夫を凝らしている。学習に困難を感じる生徒のために、随時補習を行い、一定の成果をあげることができた。生徒会役員ミーティングもこの時間を活用し、学校をよりよくするための提案や企画、運営につなげることができた。	A	・自己評価に同意
全般、総合評価			A	<p>全学年で学則定員を超える生徒が在籍し、活気と勢いを実感する中、今年度は4年ぶりに全ての学校行事を実施することができた。コロナ禍を経て、平和な日常は当たり前ではないと改めて気づかされ、感謝の気持ちでいっぱいである。MYP認定校として2年目になり、未だ改善の余地はあるものの、授業スタイル、学び方、評価方法が徐々に定着してきた。この新たな学習の型が生徒の学習意欲を刺激し、成長実感につながることを願う中、海外の姉妹校との交流も戻ってきた。ICT活用は継続しつつも、肌感覚で海外とリアルにつながり、世界基準の学びを深く定着させたい。また、刻一刻と変化する社会の多忙な日常に流されてしまわないために、毎日立ち止まることを大切に続けた。日々の祈りや授業、校長訓話、聖歌などを通じ、生徒が自分の根を深く下ろせるように導くことが、サレジオ教育の重要な使命である。</p>	A	<p>・何かトラブルが起こった時には先生方が連携して解決しようと取り組んで下さいますし、怪我や体調不良時には連絡を下さり、安心して子供を預けられます。</p> <p>・プライマリーに比べ、ミドルは子供達の様子を見れる機会が少ないように感じるの少し残念です。体育や音楽、理科の実験等の授業も見学できる機会が増えるかと嬉しいです。</p> <p>・安定した教育環境の提供と子供達への細やかな目配りを日々して下さっていることに心より感謝致します。</p>

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

本校の教育活動に対して概ね良好な評価をいただきましたこと、大変ありがたく思います。また、いただいた2つのご指摘は真摯に受け止め、新年度の努力目標といたします。一つ目の「評価」に関しては、学校評価委員会の中でお話があったように、日本型でない評価の仕組みに保護者が慣れていないという背景があります。引き続き動画配信や保護者会で事前説明を心掛け、少しずつ評価に関する理解が浸透するよう心がけたいと思います。もう一つの児童生徒を見る機会ですが、プライマリー程ではなくとも、ミドルでもお子様の様子をよく見て頂けるよう、来校の機会を検討したいと思います。そうすることで、保護者の皆様の学校への関心がをいっそう高まり、変化し続ける学校の仕組みをよりご理解いただけたらととも、PとMのギャップを解消する一助になるかと思えます。年々、サレジオを選んでくださる方が増えております。引き続きご期待に応えられるよう、真摯かつ謙虚に「サレジオの教育」を進化・深化させて参りたいと思います。